JOFIOSAKA vol.19

2007年(平成19年)1月20日発行 発行者/大阪府釣りインストラクター連絡機構

本部=大阪市中央区東心斎橋1-9-21ニュー長堀ビル3階 tel.06-6245-4800 fax.06-6245-1360 広報=大阪市北区天神橋3-8-15-301 tel.06-6358-4414 fax.06-6358-4445

平成18年度「大阪湾の水質調査」釣り人としての総括

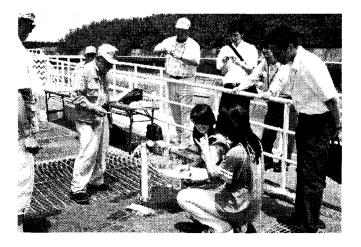
全釣り協に水産庁の委託事業としての公認釣りインストラクター制度 ができて14年余り、全国的にみると、既に組織づくりが進んで、活発な活 動が進んでいるところもあれば、ようやく軌道に乗ろうとしているところもあ ります。また、未組織でどうしてよいかわからない方々もおられる地域もあ るでしょう。

そんな中で、JOFI大阪のみなさんにとって、平成18年度は、まことに 激動の年でありました。釣り公園の運営の委託、続いて内閣官房年再 生本部と国土交通省近畿の委託による大阪湾の水質調査。どれも釣り 人のボランティア活動としては画期的なものだと思っています。基本的な 活動の基地が出来たことで、常設の釣り教室が開かれ、公園を訪れる 家族連れが激増しました。委託を受けるには法人格が必要であり、受託 法人としてのNPO法人釣り文化協会が、その機能を発揮しています。 実施にあたっては、インストラクターのみなさんには大変なご苦労をおか けしてきました。

釣りインストラクターは、釣りの技術やルール・マナーの指導をはかる釣り教室の開催や釣り場清掃のイベントばかりではなく、さまざまな役割が考えられます。

そんななかで、ボランティアとは何かという命題と取り組み、わが国に確たるボランティア制度を確立していきたいというのも、はなはだ大それたことながら、わたしたちボランティア先駆者の課題であるかと思っています。

一般に、釣りの世界では、ボランティアといえば、無償奉仕が当然のこととされているように思われます。しかしボランティアの本義は、時間のあるもの、能力のあるものがそれを提供し、その活動の費用は、経済面でゆとりのあるものが提供する。これで成り立っていく性質のものであろうかと思っています。残念ながら、わが国ではまだその本来の活動形態は未成熟であると思わざるを得ません。



釣りにあてはめると、それぞれの釣りクラブもさまざまなボランティア活動を行っていますが、そのための最低限の経費すら、捻出に苦労されたり、各自が時間、労力、能力、機材、交通費を含め、多大な負担を強いられるわけです。

こうした矛盾をなんとか解決し、インストラクターの皆様に、少しでも負担を軽くしていただき、あわせて社会的に価値のある活動、たとえば自然環境の荒廃に対する歯止めの一助としたいと、国や自治体に理解を求めたのが、表記のようなテーマだったわけです。

こうした、公的な予算を受けて実施する調査によって、広く一般釣り人 に関心を訴えかけ、さらに公的機関で、企画や意見を提出する位置づけ を獲得していきたいと考えています。何卒引き続きご協力のほど、お願い します。

平成18年度「公認釣りインストラクター養成講習会」と「資格試験」が 無事終了しました。今回は事前広報などに行き届かない部分があった のか、受講者の数は少なめでしたが、面接を終えて感じたことは、今年 度の受験者は、意欲も能力も粒選り、すばらしい人材が揃っていたという 点でした。

みなさんの仲間が少しずつ増えていきます。また、今年の夏は、全国の水産高校の先生方に釣り指導の方法とあわせて釣りインストラクター資格を取得していただくための合宿開催の委託業務が予定されており、東京海洋大学を会場に、現在全釣り協で計画をすすめています。

こうして、釣りインストラクターは、主務官庁の水産庁ばかりではなく、国 土交通省、文部省、環境省と密接な連絡をとりながら、確たる位置づけを 獲得しようとしています。

ご協力いただいている、会員の皆様ばかりではなく、 これまで参加の機会のなかった有資格者のみなさん にも、ぜひこれからの御協力をお願いします。

大阪府釣りインストラクター連絡機構 代表 來田 仁成

大阪湾水質シンポジウム (3/17開催)

日 時 平成19年3月17日13時~

会 場 マイドームおおさか 8階 第1・2研修会議室 大阪市中央区本町橋2-5 松屋町筋・内本町交差点から北へ 大阪商工会議所北隣(tel06-6947-4321)

地下鉄 中央線および堺筋線の「堺筋本町」駅の1、12番出口から徒歩7分 谷町線「谷町4丁目」駅の4番出口から徒歩7分



海辺の放置ゴミ調査とクリーンアップの日

10月1日、日曜日。NPO釣り文化協会とNPO水辺基盤協会の共催により、大阪湾の3カ所で「海辺の放置ゴミ調査とクリーンアップの日」を実施しました。参加者は112名。ゴミの処理も含めて釣り人が責任をもって行なうという考え方を浸透させる狙いもありました。

開催場所は西宮浜防波堤、貝塚人工島、深日港です。3カ所各地にインストラクターが参加しましたが、そのうちJOFI大阪が運営を担当したのは貝塚人工島です。初めてのことでしたが、皆さんの協力で、ミニ釣り大会、ゴミ掃除と調査、そしてゴミ処理まで滞りなく実施できました。ただ、本当に海辺のゴミはどうしようもないぐらい多いです。その時がんばっても、数日経てばまた打ち寄せられたり、捨てられたりで、日本人の意識を変えるぐらいやらないとだめだということも改めて感じました。それともうひとつ、参加費を集めることの意義をどのように理解していただけるかが課題として残ったと思います。なお、この事業は大阪湾ベイエリア開発推進機構からの助成を受けて実施しました。(報告:広報部・萱間修)



<西宮浜防波堤会場>

担当 宮川靖さんとソルトルアーアングラーチーム

参加者数 大人24名 学生子供6人 合計31人

ゴミの種類と量 合計21袋(漂着ゴミーペットボトル7袋/発泡クズ3袋/木クズ2袋/空き缶1袋/ナイロン袋1袋/プラスチック・ゴムなど7袋/その他壊れた車輪クーラーなど、放置ゴミ=1/3袋)ほとんどが漂着ゴミ

運営委員の感想 予測よりはるかに漂着ゴミが多く、放置ゴミとの比率を考えると、海上を漂うゴミの回収が必要ではと感じました。一度ゴミ拾いに参加すると、次にゴミを捨てる人も減るのではと思います。大阪湾でも立入りが禁止されているエリアがありますが、それがさまざまな活動を通じて釣りOKのエリアに変えることができるなら、続けていくことが必要だと思います。次回は集客のための工夫(釣り大会をもう少し大きくして、セミナーなども開いてみる)をしてもっと多くのアングラーに参加していただきたいと思います。(宮川靖)



<貝塚人工島会場>

担当 JOFI大阪インストラクターチーム

参加者数 大人17名 学生子供20名 合計37名

ゴミの種類と量 合計89袋(放置ゴミー釣具関係のゴミ3袋/ナイロン袋ゴミ20袋/弁当カス15袋/空き缶5袋/ペットボトル6袋/その他燃えるゴミ30袋)漂着ゴミはなし

運営委員の感想 ゴミの種類ですが、釣具屋さん、コンビニの袋が多い。また、飲料水の缶、アルミのペットボトルもある。生活の中でのゴミを釣り場に平気で捨てていると思った。釣り場が水面より3m以上上にあるので流れ着いたゴミはないが、しかし海に面したテトラとテトラの間には流れ着いたペットボトル、発泡スチロールなどが非常に多く見られた。この場所についての要望としては、ゴミ箱は10箇所以上必要、トイレ・水道の完備、駐車場の整備など、考えていただきたい。(高木博文)



<深日港会場>

担当 山科和史さんとトップウォーターチーム

参加者数 大人37名 学生子供7名 合計44名

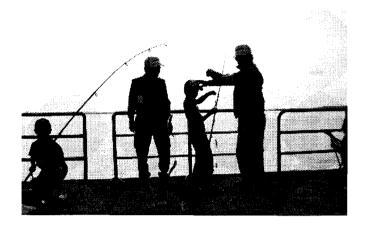
ゴミの種類と置 合計37袋(放置ゴミー釣具関係のゴミ5袋/ナイロン袋ゴミ1袋/弁当カス8袋/空き缶3袋/ペットボトル4袋/その他燃えるゴミ6袋、漂着ゴミーペットボトル2袋/その他8袋)放置ゴミと漂着ゴミの割合=3:1

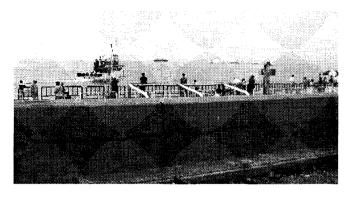
運営委員の感想 初めての海のイベントであったが、30名以上のメンバー に集まっていただいた。ゴミは主にテトラの間の漂流ゴミ、そして釣り人 のものと思われる、エサゴミ、仕掛けゴミ、弁当ゴミのほか、放置・漂着に かかわらずペットボトルなどが多いようである。これだけ取ってもまだ拾い 切れないゴミがたくさん残ってしまった。(山科和史)



一大阪市民南港魚つり園釣り大会

10月29日、日曜日。今年度からNPO法人釣り文化協会を通じて南港 魚つり園で運営協力させてもらっています。通常の日曜日は釣りの指導 を行なうだけですが、たまにはお祭り気分で釣り大会を楽しんでもらおうと、 釣具メーカーから協賛していただいて賞品などを持ち寄り、角種すべて を対象にして「南港魚つり園釣り大会」を開催しました。役員インストラク





ターは27名。大会参加者は188名でした。

<大会結果>チヌ・タイの部:1位凡山忠人チヌ42.0cm/イワシ・アジの部: 1位西角直樹イワシ18.8cm、2位西村竜司イワシ18.0cm、3位萩原啓介イ ワシ178cm/他魚の部:1位中島光男サヨリ248cm、2位岩佐利治ベラ235cm、 3位相原哲サヨリ21.1cm/ボラ・ハネの部:1位池田利治ボラ57.5cm、2 位森克昭55.0cm、3位小口日出男ボラ54.3cm

報告:高木博文(事業部、大阪南西支部)

「南港魚つり園釣り大会、巡回指導をしました。」 報告:山下隆一(大阪南西支部)

10月29日、大阪市民釣り大会・南港魚つり園釣り大 会に参加した。当日、魚つり園に早朝6時集合なので 5時に起き、あんパンをかじりながら支度をすませ向かっ た。集合10分前に到着。既にインストラクターの方々 が10数名来られていた。テーブルにはサンドイッチとコー ヒーがあった。缶コーヒーだけ戴いた。暫くして大会 の段取りや役割分担があり、私は会場の巡回、釣り教 室を担当することとなった。

午前7時、会場前に受付のテントも用意され準備も 整い競技がスタートした。本日は晴天、昼間は気温 23℃まで上昇するとの予想。大会参加は無料。来園 者は家族連れ、男女カップル、学生のグループと多様 だ。それぞれ申し込みをすませ思い思いの釣り場に 向かう。

大会がスタートして1時間が経過した。現在の釣

果状況を見てまわることにした。釣り場会場中央から まず北へ向かう。北端まで約300mある釣り波止は、 既に釣り客で半分以上埋まっている。釣果はどんなも のかバケツの中を覗いてみる。どのバケツの中も海水 だけだ。「いかがですか」とサビキ釣りの人に尋ねる が返ってくるのは「ダメです、あかんわ」。バケツを覗く と14cmくらいのアジが1匹いた。サヨリやチヌ仕掛け の人も音沙汰なしで、あきまへん、ダメですと気落ちし た返事が返ってくる。なぜ悪いのだろうか、魚はまだ 目覚めていないのだろうかと、なんとなく心配になって きた。

そんな心配をしながら8番ポイントの北端まで来て いた。折り返して南に向かうことに。小階段を降りて7 番ポイントのところで子供さんと2人で来られていたお 父さんから声を掛けられ、クーラーの中を見せられた。

> 中には1匹の魚が入っている。 その魚の名を尋ねられた。 その魚の体形は扁平してい て体表はシルバーホワイトに 輝いている。一目でメッキ(カ イワリ)と声になりかけたが 留まった。私が知っているカ イワリは体高がもっと高く丸まっ ている。この初めて見る魚 はそんなに体高が高くなくシ マアジに似ていてスピード感 のある体形をしている。私は

小首を傾けてしまった。正直困って「アジ科の魚だと 思いますが、私も初めて見る魚なのでわかりませんゴ メンなさい |と答えた。なんとも情けない始末だった。 後でわかったのですがナンヨウカイワリと言うそうです。

6番、5番ポイントを南へ向かう中、やはり釣果は少 なくアジ、サヨリ、ベラ、セイゴ、ボラが少々だ。でも魚種 は増えてきた。5番ポイントの中ごろで子供にしつこく 責められ困っている若いお父さんがいた。尋ねると、 魚が釣れないのでダダをこねられている。それでお父 さんにサビキ釣りの基本的なことや回遊魚の習性な どを奥さんと一緒に聞いていただき納得してもらった。 しかし子供さんは、そんな説明では不満は納まらない。 釣れない物は釣れないのだから納得のしようがない のだ。子供さんには後ろめたさを感じながら南へ進 んだ。

こちらも250mほど続く真っ直ぐな釣り波止で、4番 ポイントで一端行き止まりになっている。ここでもやはり 状況はよくなく小物がパラパラの貧果だ。さらに4番ポ イントの端すみに1・2・3番ポイントに渡る階段がある。 そちらへ行ってみることにする。小さな階段の一番上 からは2・3番ポイントがよく見渡せる。3番ポイントでイ ワシが快調に釣れているではないか、途端に先ほど の若夫婦や子供さんの顔が浮かんだ。早速にこれを 伝えに戻り、まだ4~5人は入れる3番へ移動するこを と勧めた。その後、テントに釣況報告に戻ることにした。 8時半を過ぎていた。

テントに帰ると、状況のよくないことは既に伝わって



いた。しかし何故か3番ポイントでイワシが釣れていることは伝わっていなかった。知らせた後、釣り体験の取材が入り2番ポイントでその協力を頼まれる。取材人を2番ポイントへ案内し、一人の青年にサビキ釣りの一から十までを一通り指導する。20分も教えたら要領を飲み込んでくれた。後はイワシの回遊を期待するだけ。

3番ポイントへ移動してきた若夫婦と子供さんが気 になりそちらの様子を見に行くことにした。お父さんを 見つけて「どうですか」と声を掛けた。声も出さず彼は、 頭を小さく横に振った。彼のそばに寄ってバケツの中を覗いてみると、およそ30匹ほどのイワシが入っているのを見て私は内心ほっとした。主役の子供さんは釣りに飽きたのか釣りをしていなかった。先ほど尋ねた時のお父さんの頭を横に振ったダメのサインは、釣れ出すともっとたくさん釣りたい思い欲望が表情に出たんでしょうか。

会場に釣果検寸の開始アナウンスがあり、そろそろ 大会終了の11時になる。テントに戻るとどんどん魚が 検寸台に運ばれていた。チヌ、セイゴ、ボラ、イワシ、アジ、 ベラ、サヨリ、カイワリと魚種は多い。この時、ハブニン グが起こった。心ない漁師たちの船団が、巾着網によ る違法漁獲している。それを目の当たりに全員が見た。 違法現場の写真も撮り、然るべき筋へ抗議することと なった。

全員検寸を終え、それぞれの部門で表彰があり参加者に大変喜んでいただいて大会は無事終了した。 参加者は188名であった。









大和川·石川クリーンキャンペーン

JOFI大阪は「大和川・石川クリーンキャンペーン」に毎年参加しています。この清掃活動は「自然を守り、緑と太陽に恵まれた住みよいまちをつくりましょう」という富田林市の市民憲章のもとに、昭和59年に石川を美しくする市民運動協議会が発足し、毎年3月の第1日曜日に、石川とその支流を市民が清掃することになりました。現在はすっかり富田林市の早春の風物詩となっています。また、富田林市からはじまったこの清掃活動は、河内長野市や羽曳野市でも同時に実施されるようになると共に、今では大和川流域も含めて取り組まれるようになり「大和川・石川クリーンキャンペーン」となっています。

地球環境問題への取り組みについては、市民ひとり一人はもとより社会を構成している各種団体や企業等の積極的な取り組みが要請されています。ゴミ拾いは、つまらない事です。しかし、市民がゴミ拾いをしないと、環境問題に関心を示す人々の輪が広がっていきません。清掃活動が終了して辺りを見渡すと驚くほど綺麗になっており「川」が笑っているような光景に見えます。JOFI大阪は、今後もこの清掃活動に微力ながら協力参加していくべきと思います。

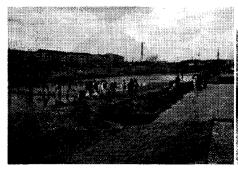
次回は、平成19年3月4日(日)です。渓流解禁シーズンにあたりますが



大勢の参加者を期待しています。

(最近の参加実績は次のとおりです。①平成17年3月6日(日)9:30~11:00 清掃場所:富田林市石川グランド会場 ②平成18年3月5日(日)10:00~11:00 清掃場所:堺市大和川会場)

報告:清水保雄(堺·南河内支部)







渚探検隊

11月5日(日) 岬町淡輪の大阪府立青少年海洋センターで催された「渚 探検隊」にJOFI大阪泉州泉南支部の久保・高渕両名が協力参加しま した。

渚探検隊は、大阪府青少年活動財団主催で、府民27家族96名、我々 スタッフを合わせ110名余が3班に分かれ、それぞれ順に観測船白鳥に 乗船し、海洋観察及び釣りと環境調査を行いました。

この渚観測隊は、府下の青少年に「海辺の自然に親しみ、渚・海の生 き物自然を観察し知ることにより、自然と人間、生き物・人間と環境の係わ りを勉強しよう」と始めたそうです。この催しは、春秋二回催しますが今 回は海水温が高く、行事の一つ、わかめの植付けに不適で、釣り教室・ 実釣の時間が多くなりました。

海の環境調査は、白鳥で天気・雲量・風向・風速に始まり、海の透明度 (湾内・湾外)、気温・水温の計測を行いました。

さて釣りのほうは、今回初めての人も多く、狭い浮き桟橋での釣りのため、 針数の多いサビキ仕掛けを安全に、また無用のお祭りを避けるため、竿 の扱い・魚の取り込み・はずし方を説明し、次に魚の習性を利用したサビ キ仕掛けの投入・沈め方・躍らせ方を説明しました。最後に危険な魚を 実物大のカラー写真で示し注意を促し、実釣のほうは一時回遊が止みま したが大漁で、大きなバケツに一杯アジを釣った家族もいたほどです。

今回は渚探検隊の皆さん個々の人のマナーの良さ自然に対する思い に感心した一日でした。

報告:高渕諒(泉州泉南支部)







る。どうしてこのような目に、畜生今に見て居れの反感は墓 す。以後、通信任務と日課、陸戦術、蛸壷、戦車壕、防空壕、 見猿、言猿、聞猿の程である。嗚呼、無情の日が続く。 る。それにしても通信隊長、掌通信隊長、分隊士と、上官は あり。何時如何なる行為が行われようとも絶対服従であ 耗品に非ず、私達若い兵員、特に志願兵は消耗品との暴言 なる。軍では悲しいことに、兵器他、軍需品、官品はすべて消 で、天皇への反逆者として汚名を付され軍法會議、投獄と 最悪。鬼畜の先任下士官「仁丹」との葛藤、戦いである。も が重労働、病魔(デング熱、マラリア、蛆虫、熱帯潰瘍)と特に 陸戦用壕堀、農耕、食事番他、諸作業を若い兵員で行い毎日 日課予定表通り遂行。十1月1日「海軍上等水兵ヲ命ズ」 動部隊は作戦変更、何れかに歸投(きとう)安堵す。以後: し反抗に及べば軍人として最悪の結果を招くことは必定 十七才、遂に私も待望の上等水兵に昇進、祥気(しょうき)

課予定表通りを遂行す。八月五日未明、艦砲射撃と戦闘 最後の決別、敵の上陸阻止撃退すべく決戦に備え待機する 後の御健闘を祈る」のみ。私達通信隊員、全員兵舎前整列 断が下され、各方面に特別緊急電報発信。各方面より「最 に決戦の時が来た。「明九日、早朝、敵機動部隊上陸」の決 機の突然の襲撃に狼狽す。この戦いは八月八日まで続き、遂 も上陸の兆しなく、引続き第一戦闘配備続行。 昭和二十年五月1日[海軍水兵長ヲ命ズ]十八才以後日

ぐこととなった。

没、要注意」と。十九日早朝、島影、第十四警備隊の大発艇 できたと加護に感謝す。然し安堵も束の間、連日連夜の叱 約六カ月、よくぞ無事に離島「カーニコバル島」に到着上陸 兵舎前下車整列。到着報告後各班に編入、旅装を解く。そ 艇へ。無事上陸。機関隊のトラックに各兵員分乗。通信隊 接近。大朝丸、减速航行、陸揚開始。隊伍兵員、朝食後大発 海と到着を願ふ。入電あり「ニコバル島周辺ニ、敵潜水艦出 徐々に治り安堵す。此の間呑まず食わずの程、唯無事の航 波高し、想像を絶する自然に驚愕す。翌十八日午后に入り 徐々に強くなり、遂に暴風波「モンスーン」に突入。印度洋 責体罪、今日は何もなければと地獄の思いが続く。 して直ちに四直配置の通信任務に就く。呉軍港出航以来

第一戦闘配備に就く。砲爆撃は四日間續き、二十日夜半、機 十月十七日早朝突然砲爆撃が始り、英機動部隊来襲。 回された。今も私の心に残る釣り人の一人である。

調べ見ると「コロール島」も「カーニコバル島」も緯度が同じ線 現在も大切に保護に勤めているようであった。世界地図を ビ放映されたのを観た。「パラオ諸島、コロール島」の巨大鰻 上にある。不思議と思わざるを得ない。何か神秘を感じる。 で、島民は伝説として神話として鰻を神様の魚といて崇め、 時を経て二〇〇三年八月三十日「地球に好奇心」がテレ

の毎日の放送の、新聞情報も受信するので本土の出来事状 絡用として使用許可を許されているので助かる。東京から 隊も日課予定表通りを行い、通信と農耕に励む。通信は連 「アンダマン」第十二特別根拠地隊と交信配船他指示を仰 あり一全員レンバン島ニ移駐セヨ」との命令である。直ちに 況は知ることができた。 弾薬他すべてを接収、廃棄処分され軍を解かれる。後、通信 十二月に入って英軍指揮官「カメレオン」少佐より通達が ・十月半ば、英軍が「カーニコバル島」に上陸進駐し、兵器 釣りの思い出

東南亜細亜四島を行く 三

十五日、特別緊急電報受信、暗号解読、戦争終結を知る。

大西

勇

(北摂豊能支部)

ナン港出航、マラッカ海を北西に針路。十七日早朝より風雨 昭和十九年九月十五日 [二二〇〇] 駆逐艦|隻護衛にてペ を告げる。其の後各所各隊では暴力、報復が頻繁に行われ 呼寄せ終戦を告げる。後九月十五日各隊長は朝食後、終戦 る。この間、司令は各隊、各派遣隊、各砲台の隊長を本部に 口外すべからず」の達示。その後一カ月通信、農耕の日々を送 く「本日の終戦は通信隊のみ承知。隊外には九月十五日迄 電文を至急本部戦闘指揮所、上田司令「大佐」に。司令曰 官に任命されたが複雑な心境であった。 良識では考へられない場所である」 た。私見「軍隊とは恐ろしい人間の集団であり、普通の常識

りの魚である。飯追兵曹の入江での鰻釣りは離島まで計三 事場で料理、蒲焼にして夕食の食卓に。美味しい。約一年ぶ 行、ジャングルの中を釣り場、入江の奥に向かう。特に足下 注意。一度の釣行で六、七匹の釣果で歸隊さる。そして即、炊 鰻が掛るのである。時には思はぬ外道の海蛇が掛るので要 は注意を要す。釣りの対象は鰻である。かなり太くて長い くの芥塵(ごみ)捨て場で太蚯蚓(ふとみみず)を集めて釣 あった。趣味は釣り、特に入江での穴釣りが得意である。近 人は口髭を生やし如何にも古武士を思わせる風貌の人で 通信隊の中に九州出身の飯迫上等兵曹が居られた。この

九月一日「任海軍二等兵曹」呉鎮守府、私も念願の下士

酷りバリア釣り大会

10月21日(土)、障害を持つ人に地域での生活支援をおこなう「NPO法人 み・らいず」が、恒例の「バリア釣りー(フリー)大会」を淡輪ヨットハーバーで開催。依頼を受け、泉州・泉南支部が主体となり高渕・川村・中川・日高・酒井・大浦・安達の7名が参加、支援しました。

障害をもたれている方37名・介助スタッフ37名・ 一般ボランティア16名に家族他の総勢105名 は秋晴れのもと釣りを満喫されました。

会場の財団法人大阪府マリーナ協会・淡輪ヨットハーバーは普段は 釣り禁止となっていますが、障害を持つ人のため当日特別に解放されて おり、釣り荒れていないのか、10時半の釣りスタートから慣れない手付き で投入されたサビキ仕掛けに、アジを主体にスズメダイや小型のグレが 入れ喰い状態で、全員が歓喜のうち、あっという間に昼を迎えました。昼 食タイムにはスタッフにより調理された釣った魚のから揚げが出され、参 加者の食欲も十分に満たされた様子でした。

午後からは「バリア釣り一大会」。6チームに分かれ、さし餌とハリス付針は共通。私に応援を求めてきたチームに与えられたその他の釣具?は、





傘2本・ネクタイ2本・南京錠1個。傘を竿に、ネクタイ2本を繋ぎ道糸代わりとし、南京錠はもちろんオモリ。桟橋に寝そべっての第一投にスズメダイがヒット! 各所で大歓声が続く中、2時30分「バリア釣りー大会」終了。このユニークな釣り大会に一番真剣に取り組んだのはJOFIの面々だった様子でした。

釣り大会終了後は「クリーンアップ大作戦」。全員でゴミを集め、予定の4時に事故無く無事閉会。障害を持つ人達とその周りの人々の心からの笑顔に触れ、素晴らしい一日を体感できました。

報告:安達昭二(泉州·泉南支部)

親子釣り教室を終えて-

<寝屋川市スポーツ少年団わんぱくスクール>

今年で4回目を迎える釣り教室が9月23日(土)にありました。大変楽しみにしている家庭が多く、魚釣りに行きたいけど釣り道具がないし、チャンスもない。生きた魚に触ったこともないし、どんな風に魚って釣るのかなぁ? でも教えてもらったら、自分の手で魚を釣り上げられるかもしれない…そんな体験ができる釣り教室です。

バスの中で釣りの説明を聞くうち子ども達の心は期待で膨らむばかりです。保護者の方も夕飯のイワシやアジのメニューが頭の中をよぎったに違いありません。

今年の釣り場の泉佐野フェリー乗り場付近波止場に着くと、5つの班に分かれ12名のJOFI大阪インストラクターからリールや仕掛けのセット方法の指導を受け、いざ釣り実行です。意気込みとは反対に潮の巡りが悪



いのか竿先に アタリはありませ ん。少し神へ動りを とている人にア ジの13センチがポ ら15センチがポ メポツしかおれ ません。そんな



時『これはでかいよ〜』『タモ持ってきて〜』と叫ぶ声がして、釣竿を置いてかけ寄る子ども達。悪戦苦闘の末、なんと海面に姿を見せたのは体長68センチのボラ。この1匹の魚の出現により子ども達もいつになく真剣なまなざしで、数時間は釣りに集中しました。

釣る時間も終わり、インストラクターのかけ声で竿や仕掛けの片付け そして釣り場の清掃です。海での釣りマナーを勉強して本日の親子釣り教室は終了です。今回参加した総勢70人全員に、魚の引きが自分の手で体験できたら最高でしたが、天候や時間、潮によってもいろいろとか、また、次回まで持ち越しです。来年はどんな釣り場に行くのか今から楽しみです。

例年のことですが、ご尽力いただいたインストラクターの皆様に感謝を しつつ無事釣り教室を終了いたしました。

報告:福島知文



第3回生野区親子ふれあい釣入門教室「今年も雨!!」

8月20日、生野区役所に於て座学、9月10日、南港魚つり園に於てサビキ釣りで実釣を行なった。

実釣当日は朝から泉州泉南支部が釣り教室を行なっており、先発メンバーから「大潮の満潮と重なり、ウネリもあるため全員ビショビショ」と連絡が早朝より入ってきた。また「長靴、カッパを用意して来るように」との連絡も入る。天気予報も午後になって雨の予報。また今年もかと朝からやきもきしながら、予定通り午後3時の集合を決断。

昼過ぎ、家を出る時は青空さえ出ていたのに、南港つり園に着いて用意をしている最中、一転俄かに薄暗くなり、尼崎~淀川方向から真黒になり、一気に大スコールの洗礼を受けた。足元は一瞬川になった様子。4~5人のインストラクターでテントを押えている間も、参加者が車の中から連絡をしてくる。釣り人も全員ズブ濡れで引きあげていく。今日はダメかもな? 皆そう思ったが、約20分ほどでウソのように雨もあがり、陽も差してきた。予定通り3時過ぎ、貸切になった波止で釣り開始。

すぐさまあちらこちらで子供たちの歓声があがる。3連4連とコノシロ、

小アジ、爆釣である。ウネリもとれ、撒き餌のタップリ利いた(?)海を見てホッと胸をなでた。また今年も雨にやられたと思ったが、反対に大スコールに助けられたようである。

一段落して一周りしていると一人の子が「おっちゃん海の水の色こんなんとちがうやろ?」と聞いてきた。子供も釣りをしながらちゃんと観察している。 「何でやろ、考えてみて」と答えておいた。そのうち答を出してくれるだろう。

陽の落ちかけた6時半、実釣を終了し各自釣具の片付けをすませ、当 日最後まで事務所に残っておられた來田園長の締めの言葉で解散した。

「この魚食べられる?」との問いには調理法を伝えた。帰ってから参加者の店へ行くと早速料理をしていた。コノシロの空揚げがウマかった。他の客も「ウマイな! この魚何?」と食べていた。

「こんなに持って帰ってどうしよう」と言っていた若い母親も「おいしかった」と電話をくれた。

いつもは外道あつかいされて波止の上に捨てられているのをよく見かける。大切な海洋資源であり調理次第でということも学んでもらえたと思う。







今年もたくさんのふれあいを残してくれた。また来年も頑張ってみよう。早朝より最後まで頑張って頂いた多くのインストラクター各位ありがとうございました。

報告:近藤幹雄(大阪東支部)

魚つり園での光景

ある休日の大阪南港魚つり園、海風に吹かれ夫婦で楽しく釣りを楽しんでいました。アジ、イワシがたくさん釣れ喜んでいたところ、目の前に急に漁船団が現れ漁が始まってしまいました。途端に夫婦の釣果はバッタリ止まり、やるせない表情となってしまいました。この漁は、漁業区域であるから公正なものでありますが、"魚つり園"の目の前であること

を考えるといかがなものでしょうか? 諸官庁及び 漁業協同組合の再考をお願いしたいものであります。 魚つり園にやって来る釣り人は、漁ではなく楽しみ を釣りに来ていると思います。この漁は、夫婦の楽 しみをすくってしまったと言えます。私たち釣りイン ストラクターの重要な活動として、釣り人の"楽しみ を釣る思い"を諸官庁に発信し、釣り人の権利を守 るということがあります。釣りインストラクターとして微 力ながら協力できればと実感した一日でした。



報告:清水保雄(堺·南河内支部)

釣り界の新しい動きは、こちらをご覧ください。

http://www.zenturi-jofi.or.jp

(社)全日本釣団体協議会のホームページです。外来魚問題や沿岸の釣りなど、釣り行政の動きを日々捕らえて全釣協としての姿勢、釣り人としての対応等についてまとめています。

大阪湾の水質調査や釣り人ボランティアの動きについては、こちらご覧下さい。

http://www.turibunka.or.jp



JOFIOSAKA vol.19

2007年(平成19年)1月20日発行 発行者/大阪府釣りインストラクター連絡機構

本部一大阪市中央区東心斎橋1-9-21二ュー長堀ビル3階 tel.06-6245-4800 fax.06-6245-1360 広報一大阪市北区天神橋3-8-15-301 tel.06-6358-4414 fax.06-6358-4445

平成18年度「大阪湾の水質調査」釣り人としての総括

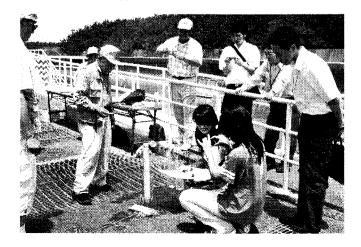
全釣り協に水産庁の委託事業としての公認釣りインストラクター制度ができて14年余り、全国的にみると、既に組織づくりが進んで、活発な活動が進んでいるところもあれば、ようやく軌道に乗ろうとしているところもあります。また、未組織でどうしてよいかわからない方々もおられる地域もあるでしょう。

そんな中で、JOFI大阪のみなさんにとって、平成18年度は、まことに激動の年でありました。釣り公園の運営の委託、続いて内閣官房年再生本部と国土交通省近畿の委託による大阪湾の水質調査。どれも釣り人のボランティア活動としては画期的なものだと思っています。基本的な活動の基地が出来たことで、常設の釣り教室が開かれ、公園を訪れる家族連れが激増しました。委託を受けるには法人格が必要であり、受託法人としてのNPO法人釣り文化協会が、その機能を発揮しています。実施にあたっては、インストラクターのみなさんには大変なご苦労をおかけしてきました。

釣りインストラクターは、釣りの技術やルール・マナーの指導をはかる釣り教室の開催や釣り場清掃のイベントばかりではなく、さまざまな役割が考えられます。

そんななかで、ボランティアとは何かという命題と取り組み、わが国に確たるボランティア制度を確立していきたいというのも、はなはだ大それたことながら、わたしたちボランティア先駆者の課題であるかと思っています。

一般に、釣りの世界では、ボランティアといえば、無償奉仕が当然のこととされているように思われます。しかしボランティアの本義は、時間のあるもの、能力のあるものがそれを提供し、その活動の費用は、経済面でゆとりのあるものが提供する。これで成り立っていく性質のものであろうかと思っています。残念ながら、わが国ではまだその本来の活動形態は未成熟であると思わざるを得ません。



釣りにあてはめると、それぞれの釣りクラブもさまざまなボランティア活動を行っていますが、そのための最低限の経費すら、捻出に苦労されたり、各自が時間、労力、能力、機材、交通費を含め、多大な負担を強いられるわけです。

こうした矛盾をなんとか解決し、インストラクターの皆様に、少しでも負担を軽くしていただき、あわせて社会的に価値のある活動、たとえば自然環境の荒廃に対する歯止めの一助としたいと、国や自治体に理解を求めたのが、表記のようなテーマだったわけです。

こうした、公的な予算を受けて実施する調査によって、広く一般釣り人に関心を訴えかけ、さらに公的機関で、企画や意見を提出する位置づけを獲得していきたいと考えています。何卒引き続きご協力のほど、お願いします。

平成18年度「公認釣りインストラクター養成講習会」と「資格試験」が 無事終了しました。今回は事前広報などに行き届かない部分があった のか、受講者の数は少なめでしたが、面接を終えて感じたことは、今年 度の受験者は、意欲も能力も粒選り、すばらしい人材が揃っていたという 点でした。

みなさんの仲間が少しずつ増えていきます。また、今年の夏は、全国の水産高校の先生方に釣り指導の方法とあわせて釣りインストラクター資格を取得していただくための合宿開催の委託業務が予定されており、東京海洋大学を会場に、現在全釣り協で計画をすすめています。

こうして、釣りインストラクターは、主務官庁の水産庁ばかりではなく、国 土交通省、文部省、環境省と密接な連絡をとりながら、確たる位置づけを 獲得しようとしています。

ご協力いただいている、会員の皆様ばかりではなく、 これまで参加の機会のなかった有資格者のみなさん にも、ぜひこれからの御協力をお願いします。

大阪府釣りインストラクター連絡機構 代表 來田 仁成

大阪湾水質シンポジウム(3/17開催)

日 時 平成19年3月17日13時~

会 場 マイドームおおさか 8階 第1・2研修会議室 大阪市中央区本町橋2-5 松屋町筋・内本町交差点から北へ

大阪商工会議所北隣(tel06-6947-4321) 鉄 中央線および堺筋線の「堺筋本町」駅の1、12番出口から徒歩7分

地下鉄 中央線および堺筋線の「堺筋本町」駅の1、12番出口から徒歩75 谷町線「谷町4丁目」駅の4番出口から徒歩7分